

<特集「否定、形容詞と連体修飾複文」>

## 朝鮮語の否定、形容詞と連体修飾複文 Negation, Adjective and Adnominal Constructions in Korean

黒島 規史  
Norifumi Kuroshima

東京外国語大学非常勤講師／東京外国語大学 AA 研共同研究員  
Part-time Lecturer, Tokyo University of Foreign Studies / Joint Researcher of ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:** 本稿では、本号の特集にしたがって朝鮮語の否定、形容詞と連体修飾複文について概観する。朝鮮語のデータを提示したうえで、各例文に対して解説を加える。

**Abstract:** This article overviews negation, adjective, and adnominal constructions in Korean based on the questionnaire on the special topic of this volume. We present Korean examples and give an explanation for each example sentence.

**キーワード:** 朝鮮語、否定、形容詞、連体修飾複文

**Keywords :** Korean, negation, adjective, adnominal construction

### 1. はじめに

本稿では特集「否定、形容詞と連体修飾複文」のアンケートに沿って現代朝鮮語（以下、単に朝鮮語と称する）の例文を提示し、各例文に対して適宜補足説明を加える。

例文は筆者がアンケート例文を朝鮮語にし、その朝鮮語をコンサルタントの方に確認していただいた。コンサルタントはソウル出身の30代男性であり、日本語も流暢である。

### 2. アンケート項目に対する朝鮮語データ

例文の朝鮮語はハングル表記と、Yale 式ラテン文字転写<sup>1)</sup>にグロスを付して提示する。

1 から 7、10 から 19 の否定に関する例文を挙げる前に、朝鮮語における述語の否定の特徴を簡単に述べておく。朝鮮語の用言は動詞、形容詞、存在詞、指定詞（コンピュータ）に分けることができる。動詞と形容詞の否定は述語の前に否定の副詞 *an* を置くか、動詞語幹に *-ci anh-* を付ける二つの方法がある。前者は話しことばで、後者は書きことばでよく用いられる。不可能形もこの否定形とパラレルな関係にあり、二つの統語的手段を持つ。ただ、*al-*「知っている」の否定は *molu-*「知らない」となり、語彙的な手段による。存在詞は *iss-*「ある、いる」と *eps-*「ない、いない」の二つのみで、肯否のペアを成している。存在に関して朝鮮語では有情物と無情物の区別はない。指定詞も *i-*「～である」と *ani-*「～でない」の二つのみで、やはり語彙的に肯否のペアを成している。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1)</sup> ハングルのラテン文字転写には浅尾仁彦氏が作成した「ハングル → イェール式ローマ字変換」(<http://asaokitan.net/tools/hangul2yale/>) を利用した。ただし、両唇音 (p, pp, ph, m) に付く *wu* は *u* で表記せず、そのまま *wu* で転写している。

(1) これは私の本ではない。[名詞述語文／コピュラ文の否定]

이것은 내 책이 아니다.

ikes=un nay chayk=i ani-ta.

これ=TOP 1SG.GEN 本=NOM NCOP-DECL

(2) この部屋には椅子がない。[存在文の否定]

이 방에는 의자가 없다.

i pang=ey=nun uyca=ka eps-ta.

この 部屋=DAT=TOP 椅子=NOM ない-DECL

(3) この部屋には一つも椅子がない。[全部否定・モノ]

이 방에는 의자가 하나도 없다.

i pang=ey=nun uyca=ka hana=to eps-ta.

この 部屋=DAT=TOP 椅子=NOM 一つも ない-DECL

(4) その部屋には誰もいない。[全部否定・ヒト]

그 방에는 {아무도 / 그 누구도 / 어느 누구도} 없다.

ku pang=ey=nun {amwu=to / ku nwukwu=to / enu nwukwu=to} eps-ta.

その 部屋=DAT=TOP 誰も その 誰も どの 誰も いない-DECL

「誰も」という場合には、不定代名詞の amwu を用いることが多いが、疑問詞 nwukwu を用いることもできる。その場合、例文に示したように ku 「その」や enu 「どの」を付けることでより安定した表現になる。このようなバリエーションは「なにも」「どこにも」にも同様に見られる。「誰も」に関しては、前回の特集でも扱った。黒島・崔 (2017: 146-147) の例文 (18), (19) を参照されたい。

(5) その本はこの部屋にない。[所在文の否定]

그 책은 이 방에는 없다.

ku chayk=un i pang=ey=nun eps-ta.

その 本=TOP この 部屋=DAT=TOP ない-DECL

(6) この犬は大きくない。[形容詞文の否定]

이 개는 크지 않다.

i kay=nun khu-ci anh-ta.

この 犬=TOP 大きい-NMLZ NEG-DECL

(7) この犬はあまり大きくない。[形容詞文の部分否定]

이 개는 {별로 / 그렇게 / 그다지} 크지 않다.

i kay=nun {pyello / kuleh-key / kutaci} khu-ci anh-ta.

この 犬=TOP 別に そうだ-ADV.MNN それほど 大きい-NMLZ NEG-DECL

pyello, kuleh-key, kutaci は形容詞の部分否定だけに用いられるわけではなく、pyello であれば「物があまりない」のようにも用いられる。pyello と kutaci は否定極性を持つが、kuleh-key は持っていない。

(8) この犬はあの犬より大きい。[比較級]

이 개는 저 개보다 크다.

i kay=nun ce kay=pota khu-ta.

この 犬=TOP あの 犬=CMPR 大きい-DECL

比較を表す場合、日本語と同様に比較対象に比較格の =pota を付ける。

(9) この犬がその犬たちの中で一番大きい。[最上級]

이 개가 그 개들 중에 {가장 / 제일} 크다.

i kay=ka ku kay=tul cwung=ey {kacang / ceyil} khu-ta.

この 犬=NOM その 犬=PL 中=DAT 最も 一番 大きい-DECL

最上級を表すには、(9) に挙げたような副詞を用いる。

(10) 今日はあの人は来ない。[自動詞文の否定]

오늘은 그 사람은 안 온다.

onul=un ku salam=un an o-nta.

今日=NOM その 人=TOP NEG 来る-DECL.NPST

(11) あの人はその本を持って行かなかった。[他動詞文の否定]

저 사람은 그 책을 가져가지 않았다.

ce salam=un ku chayk=ul kacye-ka-ci anh-ass-ta.

あの 人=TOP その 本=ACC 持って行く-NMLZ NEG-PST-DECL

(10) では述語に an を前置させる否定、(11) では -ci anh- を後置させる否定の表現を用いているが、これは動詞の自他とは無関係で、入れ替えても自然さに影響はない。(12) と (17) も同様に、どちらの否定表現を用いてもかまわない。ただ、(12) のように述語が漢字語 + ha-「する」(参加する)のときは、an を前置する否定において an を ha-「する」の前に挿入する必要がある。

(12) 全ての学生が参加しなかった／学生は全員参加しなかった。[数量の全部否定]

a. 모든 학생이 참가하지 않았다.

motun haksayng=i chamkaha-ci anh-ass-ta.

全ての 学生=NOM 参加する-NMLZ NEG-PST-DECL

b. 학생은 모두 참가하지 않았다.

haksayng=un motwu chamkaha-ci anh-ass-ta.

学生=TOP 全て 参加する-NMLZ NEG-PST-DECL

(12) では日本語と同様に二つの言い方が可能である。

(13) 全ての学生が参加したわけではない。[数量の部分否定]

모든 학생이 참가한 것은 아니다.

motun haksayng=i chamkaha-n kes=un ani-ta.

全ての 学生=NOM 参加する-ADN.PST こと=TOP NCOP-DECL

(14) (私は買わなかった。しかし、決して) 値段が高いというわけではない。[文の否定]

값이 비싼 것은 아니다.

kaps=i pissa-n kes=un ani-ta.

値段=NOM 高い-ADN.NPST こと=TOP NCOP-DECL

(13), (14) はともに独立性のない不完全名詞 kes 「もの、こと」により名詞化して表す。

(15) 走るな！[禁止]

뛰지 마!

ttwi-ci ma!

走る-NMLZ やめる:IMPR

(16) 大きな声を出すな！[他動詞文の禁止]

큰 소리 내지 마!

khu-n soli nay-ci ma!

大きい-ADN.NPST 声 出す-NMLZ やめる:IMPR

(15), (16) に挙げたように、禁止には -ci mal- を用いる。動詞を名詞化させるのは、否定の場合と同様である。

(17) 明日は雨は降らないだろう。[推量の否定]

내일은 비는 안 올 것이다.

nayil=un pi=nun an o-l kes=i-ta.

明日=TOP 雨=TOP NEG 来る-SPEC=COP-DECL

(18) あの人に聞こえないように、小さな声で話してくれ。[目的節の否定]

저 사람한테 {들리지 않게(끔) / 들리지 않도록} 작은 소리로 말해 줘.

ce salam=hanthey {tulli-ci anh-key(kkum) / tullu-ci anh-tolok} cak-un

あの 人=DAT 聞こえる-NMLZ NEG-ADV.MNN 聞こえる-NMLZ NEG-ADV.MNN 小さい-ADN.NPST

soli=lo malhay cw-e.

声=INST 言う:ADV BEN-IMPR

「～(し)ないように」は二つの副動詞語尾 -key と -tolok を用いることができる。二つの副動詞語尾はいくつかの意味があるが -keykkum は目的の意味しかない。両者は目的の他にも程度の意味を共通して持つが、-key は様態を、-tolok は時間的な到達を表す用法を独自に持つ点で異なる。

(19) 私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。[否定のスコープの調節]

나는 너를 화나게 하려고 그런 건 아냐.

na=nun ne=lul hwana-key ha-lyeko kule-n ke=n any-a.

1SG=TOP 2SG=ACC 怒る-ADV.MNN する-ADV.VOL そう言う-ADN.PST こと=TOP NCOP-DECL

(19) でも (13), (14) のように不完全名詞 kes (話しことばでは ke) を用いる。

(20) 私が昨日買ってきた本はどこ(にある)? [内の関係の連体修飾節・目的語]

내가 어제 사 온 책은 어디 있어?

nay=ka ecey sa o-n chayk=un eti iss-e?

1SG=NOM 昨日 買う:ADV VEN-ADN.PST 本=TOP どこ ある-INTRR

(21) その本を持って来た人は誰(か)? [内の関係の連体修飾節・主語]

그 책을 가져온 사람이 누구야?

ku chayk=ul kacyeo-n salam=i nwukwu=ya?

その 本=ACC 持って来る-ADN.PST 人=NOM 誰=COP:INTRR

(22) この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。[内の関係の連体修飾節・場所]

이 방이 우리가 일하고 있는 방입니다.

i pang=i wuli=ka ilha-ko iss-nun pang=i-pnita.

この 部屋=NOM 1PL=NOM 働く-ADV PROG-ADN.NPST 部屋=COP-DECL.POL

(23) 足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。[内の関係の連体修飾節・所有者]

다리가 하나 부러진 그 의자는 이미 버렸다.

tali=ka hana pwuleci-n ku uyca=nun imi pely-ess-ta.

足=NOM 一つ 折れる-ADN.PST その 椅子=TOP すでに 捨てる-PST-DECL

(24) ドアを叩いている音が聞こえる。[外の関係の連体修飾節]

문을 두드리는 소리가 들린다.

mwun=ul twutuli-nun soli=ka tulli-nta.

ドア=ACC 叩く-ADN.NPST 声=NOM 聞こえる-DECL.NPST

(24) は外の関係だが、(20) から (23) の内の関係の例と同様に連体形を用いる。

(25) あの人が結婚したという噂は本当(か)? [外の関係の連体修飾節]

그 사람이 결혼했다는 소문은 진짜야?

ku salam=i kyelhonhay-ss-ta-nun somwun=un cincca=ya?

その 人=NOM 結婚する-PST-DECL.QUOTE-ADN.NPST 噂=TOP 本当=COP:INTRR

「噂」「命令」など、言語行為に関わる名詞句を修飾する場合、日本語のトイウのような表現を用いる。例 (25) では終止形の述語に直接非過去連体形が接続しているが、これは -ta-ko ha-nun (-DECL.QUOTE-COMP 言う-ADN.NPST) のように COMP (補文節マーカー) と「言う」のような言語行

為を表す動詞が省略されたものと解釈される。

(26) 私はその人が来た時にご飯を食べていた。[時間節]

나는 그 사람이 왔을 때 밥을 먹고 있었다.

na=nun ku salam=i w-ass-ul ttay pap=ul mek-ko iss-ess-ta.  
1SG=TOP その人=NOM 来る-PST-ADN.IRR とき ご飯=ACC 食べる-ADV PROG-PST-DECL

時を表す名詞 ttay を修飾する場合、連体形は非現実の -(u)l になることがほとんどである。

(27) 私はその人が待っている所に行った。[場所節]

나는 그 사람이 {기다리고 있는 곳으로 / 기다리고 있는 데로} 갔다.

na=nun ku salam=i {kitali-ko iss-nun kos=ulo / kitali-ko iss-nun tey=lo}  
1SG=TOP その人=NOM 待つ-ADV PROG-ADN.NPST ところ=ALL 待つ-ADV PROG-ADN.NPST ところ=ALL  
ka-ss-ta.  
行く-PST-DECL

場所を表すには (27) のように不完全名詞 kos あるいは tey が用いられる。後者はやや話しことば的である。

(28) 私はその人が走っていったのを見た。[補文節・視覚]

나는 그 사람이 달려 가는 것을 봤다.

na=nun ku salam=i tally-e ka-nun kes=ul pw-ass-ta.  
1SG=TOP その人=NOM 走る-ADV AND-ADN.NPST こと=ACC 見る-PST-DECL

補文節は不完全名詞 kes 「こと、もの」を用いて名詞化することで形成される。次の (29), (30) も同様である。

(29) 昨日の夜、私は彼らがしゃべっているのを聞いた。[補文節・聴覚]

어젯밤에 나는 그들이 이야기하고 있는 것을 들었다.

eceyepam=ey na=nun kutul=i iyakiha-ko iss-nun kes=ul tul-ess-ta.  
昨晚=DAT 1SG=TOP 3PL=NOM 話す-ADV PROG-ADN.NPST こと=ACC 聞く-PST-DECL

(30) 私はその人が昨日ここに来たことを知っている。[補文節・知識]

나는 그 사람이 어제 여기에 {온 것을 / 온 걸로} 알고 있다.

na=nun ku salam=i ecey yeki=ey {o-n kes=ul / o-n ke=llo}  
1SG=TOP その人=NOM 昨日 ここ=DAT 来る-ADN.PST こと=ACC 来る-ADN.PST こと=INST  
al-ko iss-ta.  
知る-ADV PROG-DECL

「来たことを」には二通りの朝鮮語を挙げたが、日本語に近いのは前者の言い方である。後者は「来たものと思っている」ほどの意味である。

(31) (昨日)彼は彼が今日ここに来たと言った。/(昨日)彼は、「私は今日ここに来た」と言った。

[補文節・直接発話/間接話法]

a. 그는 그가 오늘 여기에 왔다고 했다.

ku=nun ku=ka onul yeki=ey w-ass-ta-ko hay-ss-ta.  
3SG.M=TOP 3SG.M=NOM 今日 ここ=DAT 来る-PST-DECL.QUOT-COMP 言う-PST-DECL

b. 그는 “나는 오늘 여기에 왔어”라고 했다.

ku=nun “na=nun onul yeki=ey w-ass-e”=la-ko hay-ss-ta.  
3SG.M=TOP 1SG=NOM 今日 ここ=DAT 来る-PST-DECL=COP.QUOT-COMP 言う-PST-DECL

(31a) に関して、発話動詞の目的語項となる補文節の場合、述語の終止形に補文節マーカーである *-ko* が結合する。ただ、話しことばではしばしば *-ko* は現れないことがあり、この点は日本語の関西方言にも似ている。直接引用は (31b) のように *=la-ko* を用いる。あるいは *-ko* の代わりに副動詞語尾 *-mye* 「～ながら」を付け *-la-mye* としたうえで、主節に *ha-* 「言う」以外の言語行為を表す動詞を用いることもできる。

(32) 私はリンゴが(あの)皿の上にあったのを食べた。[内在節・従主・主目]<sup>2</sup>

a. ??나는 사과가 접시 위에 있는 것을 먹었다.

??na=nun sakwa=ka cepsi wi=ey iss-nun kes=ul mek-ess-ta.  
1SG=TOP リンゴ=NOM 皿 上=DAT ある-ADN.NPST もの=ACC 食べる-PST-DECL

b. 나는 접시 위에 있는 사과를 먹었다.

na=nun cepsi wi=ey iss-nun sakwa=lul mek-ess-ta.  
1SG=TOP 皿 上=DATある-ADN.NPST リンゴ=ACC 食べる-PST-DECL

(33) 私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。[内在節・従主・主目]

a. ??나는 고양이가 집에 들어온 것을 잡았다.

??na=nun koyangi=ka cip=ey tuleo-n kes=ul cap-ass-ta.  
1SG=TOP ネコ=NOM 家=DAT入ってくる-ADN.PST もの=ACC 捕まえる-PST-DECL

b. 나는 집에 들어온 고양이를 잡았다.

na=nun cip=ey tuleo-n koyangi=lul cap-ass-ta.  
1SG=TOP 家=DAT 入ってくる-ADN.PST ネコ=ACC 捕まえる-PST-DECL

主要部内在型関係節の許容度は人にもよると考えられるが、今回の調査では、(32a), (33a) のように不自然という回答だった。この場合、(32b), (33b) のように主要部外在型関係節で表す必要がある。<sup>3</sup>

<sup>2</sup> アンケートでは [内在節・従主・主目] となっていたが、例 (32) は [内在節・従主・主目] であるため、修正した。統語的には例 (33) と同じパターンである。[内在節・従主・主目] の例を (34) に挙げる。

<sup>3</sup> 風間 (2017: 21) では同様の例文について調査し、助詞を取り除いた口語でなら自然になるということ指摘している。

### 3. 主要部内在型関係節に関する追加の朝鮮語データ

主要部内在型関係節について、関係節が主語になる例を補い、(32a), (33a) とは異なり、主要部内在型関係節が自然だと判断される例もあることを示す。

#### (34) 泥棒が家に入ってきたのが逃げた。[内在節・従主・主主]

??도둑이 집에 들어온 것이 도망쳤다.

??totwuk=i cip=ey tuleo-n kes=i tomang#chy-ess-ta.

泥棒=NOM 家=DAT 入ってくる-ADN.PST もの=NOM 逃亡#する-PST-DECL

(34) は [内在節・従主・主主] のパタンが適格な文となるか検証するためのものである。この例は不自然と判断された。

#### (35) その人がパソコンが故障したのを直した。[内在節・従主・主目]

그 사람이 컴퓨터가 고장난 것을 고쳤다.

ku salam=i khemphyuthe=ka kocang#na-n kes=ul kochoy-ess-ta.

その人=NOM パソコン=NOM 故障#でる-ADN.PST もの=ACC 直す-PST-DECL

(35) は Jhang (1994: 2) で挙げられた例を、主語のみ換えて作った文である。Jhang (1994: 2) でも適格な文とされているが、やはりこの例は自然であると判断された。(32), (33) との容認度の差はなにに起因するのか、さらに調査が必要である。

### 4. おわりに

本稿では特集「否定、形容詞と連体修飾複文」のアンケート項目に沿って朝鮮語の例を提示し、必要などころには簡単な解説を加えた。さらに、主要部内在型関係節について二つ例を追加した。主要部内在型関係節に関しては、先行研究において自然な文として提示されている例も、実際はほとんど用いられず、不自然と判断されることも多い。どのような主要部内在型関係節なら自然だと判断されるのか、さらに詳細な研究が必要であろう。

略号一覧

ACC	accusative	対格	NMLZ	nominalizer	名詞化
ADN	adnominal form	連体形	NOM	nominative	主格
ADV	adverbial form	副動詞形	NPST	non past	非過去
ALL	allative	沿格	PL	plural	複数
AND	andative	遠心	PROG	progressive	進行
BEN	benefactive	受益	PST	past	過去
CMPR	comparative	比較格	QUOT	quotative	引用
COMP	complementizer	補文標識	SG	singular	単数
COP	copula	指定詞	SPEC	speculative	推量
DAT	dative-locative	与位格	TOP	topic	主題
DECL	declarative	叙述	VEN	venitive	求心
GEN	genitive	属格	VOL	volitive	意志
IMPR	imperative	命令	1		1人称
INST	instrumental	具格	2		2人称
INTRR	interrogative	疑問	3		3人称
IRR	irrealis	非現実	-		接辞境界
M	masculine	男性	=		接語境界
MNN	manner	様態	#		語境界
NCOP	negative copula	否定のコピュラ	:		形態素境界非表示
NEG	negative	否定			

参考文献

- Jhang, Sea-Eun. 1994. *Headed Nominalizations in Korean: Relative Clauses, Clefts, and Comparatives*. Doctoral dissertation, Simon Fraser University.
- 風間伸次郎. 2017. 「アルタイ型言語における主要部内在型関係節について」『北方人文研究』10: 3-33. 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター.
- 黒島規史・崔正熙. 2017. 「現代朝鮮語の情報表示の諸要素」『語学研究所論集』22: 138-152. 東京外国語大学語学研究所.

執筆者連絡先: norifumi.964ma@gmail.com

原稿受理: 2019年5月8日